

可視化ツールの活用

～地域課題の抽出～



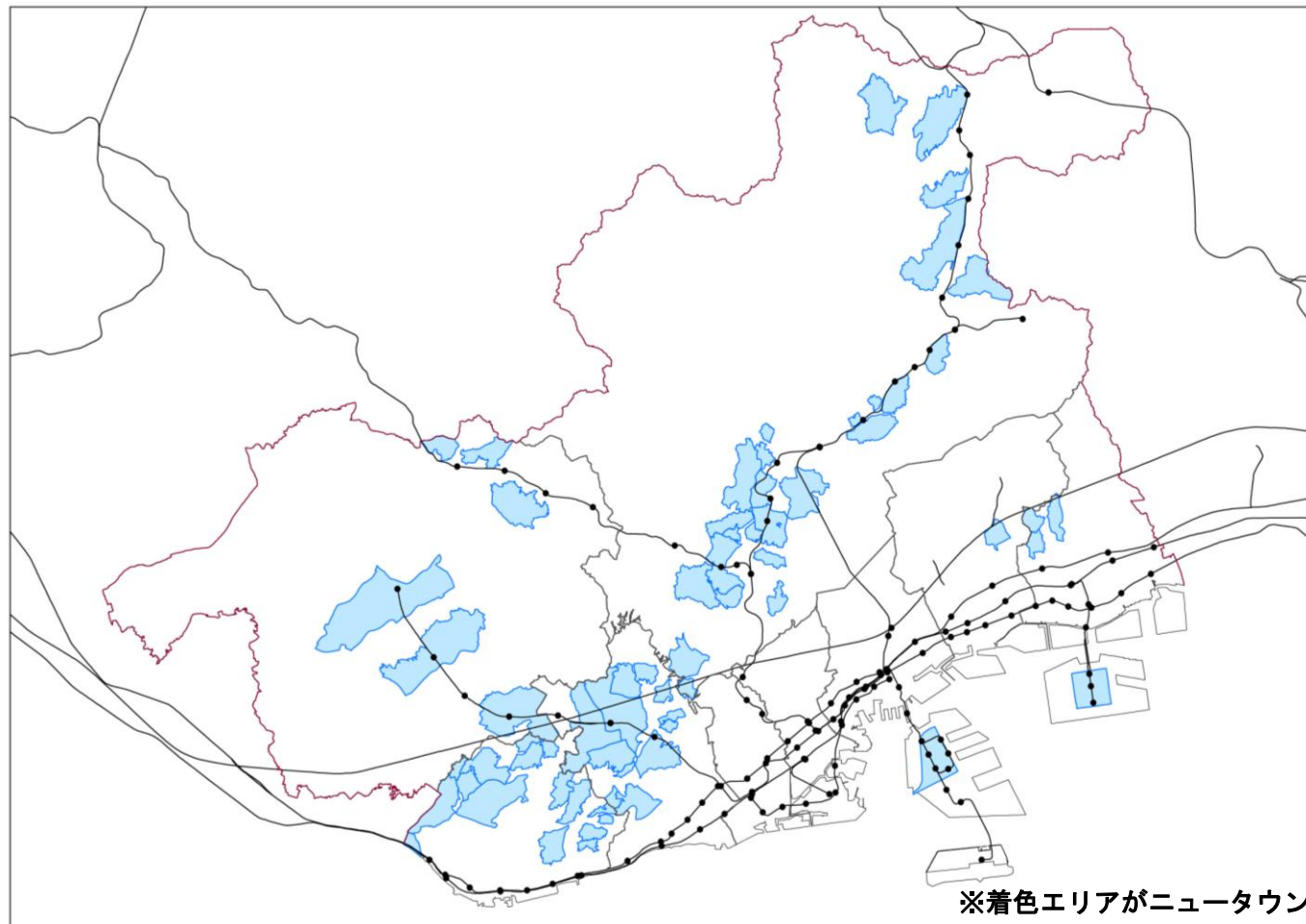
神戸市都市局都市づくり課

1.神戸市の都市構造（NTについて）

神戸市では昭和30年代以降、人口増加に対応するため、多くのニュータウンを整備

面積：約6,390ha（市街化区域の3分の1）

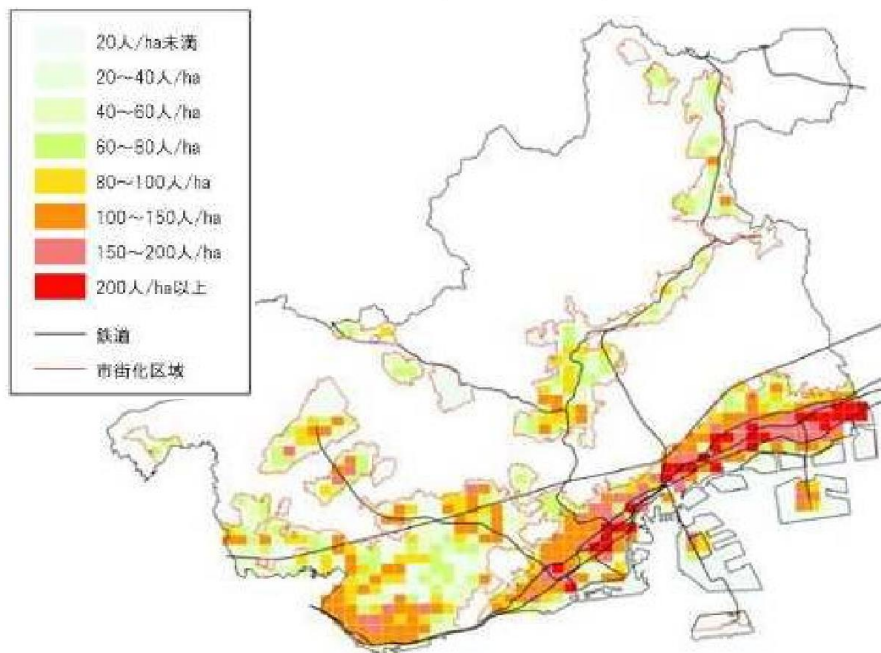
人口：約47万人（2024.9時点） 高齢化率：約33.5%（全市平均約29%）



2.神戸市の人口動態

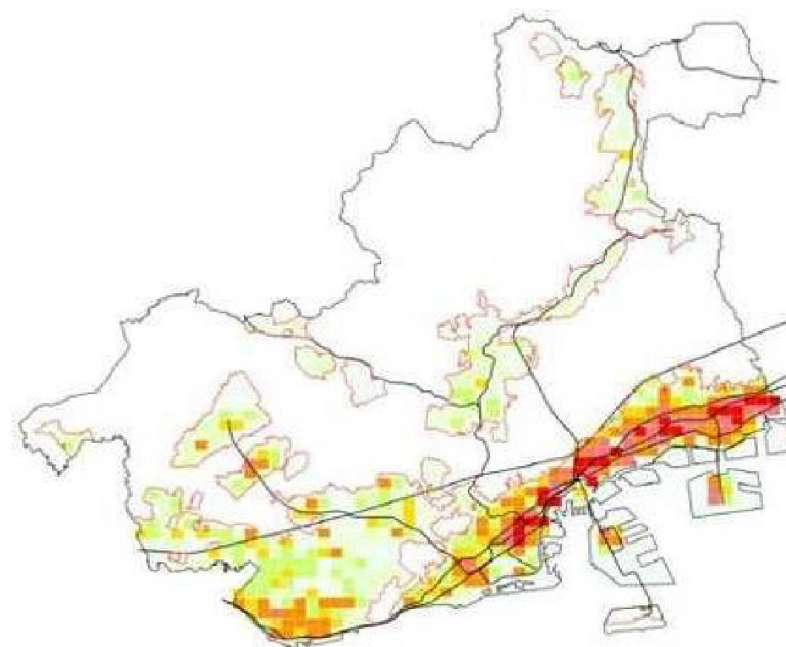
人口減少、少子高齢化が進む中、NTではその傾向が顕著
将来のNT人口や人口密度への対応が必要

図 2-7 現況（2015 年）人口密度



国土数値情報 500m メッシュ別人口密度
(2015 年現況)

図 2-8 将来（2050 年）人口密度



国土数値情報 500m メッシュ別人口密度
(2050 年将来推計)

出典：神戸市都市空間向上計画（2022.1改定版）

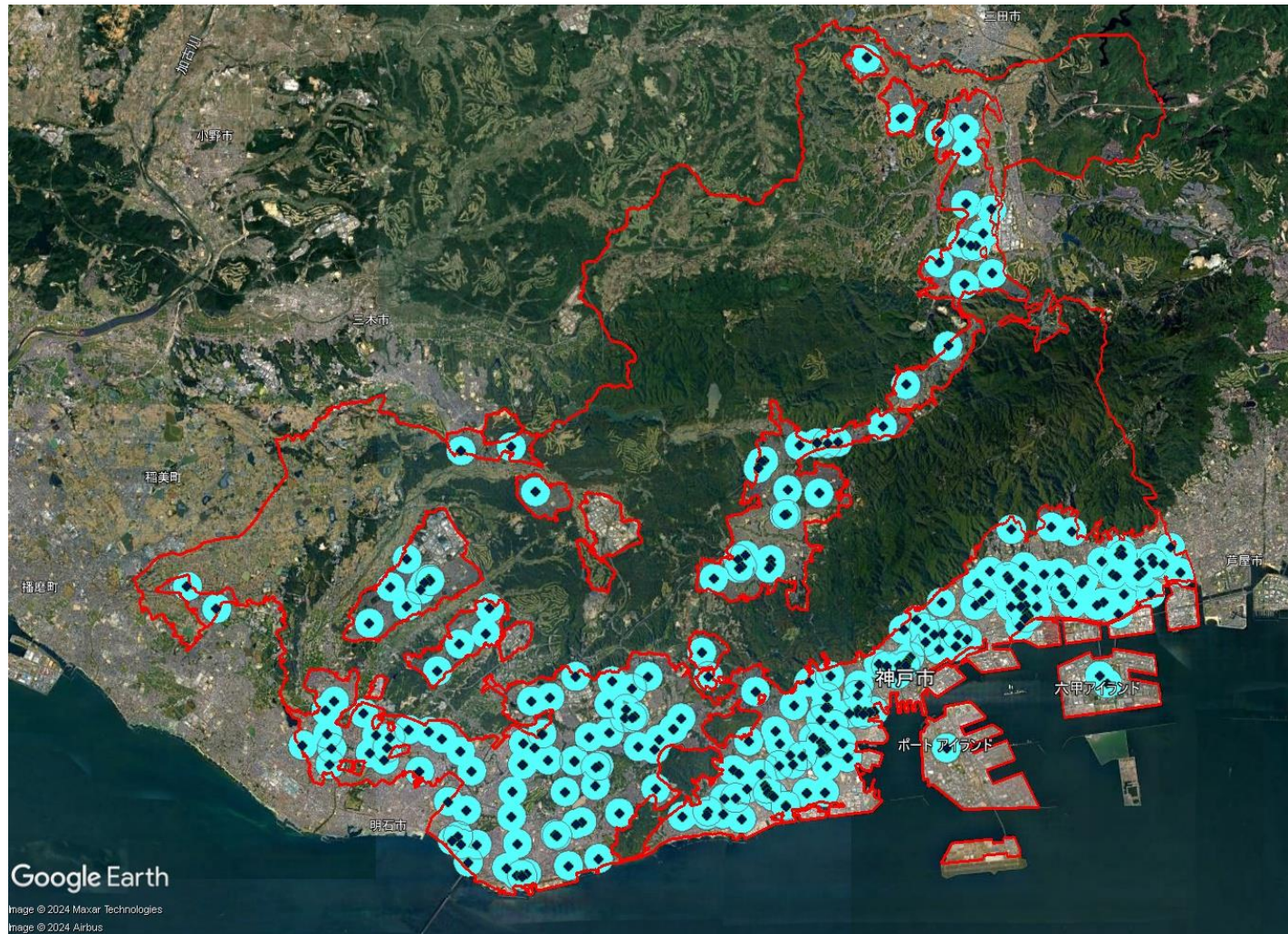
3.可視化ツールの活用①

生活サービス、特に買い回り着目した課題の抽出



4.可視化ツールの活用②

買い物空白地(商圏500mの圏外)の可視化



5.施策立案までのプロセス

エリアを抽出し、詳細分析を経て施策検討

エリアの抽出(今回の内容)

- ・ 町丁目単位
- ・ 小学校区単位



詳細分析(今後の取り組み)

- ・ 人口分布（高齢化率、高齢者数、子育て世帯数）
- ・ 地形条件（拠点スーパーまでの距離、道路勾配）
- ・ 関係者ヒアリング（地元団体、事業者）



施策検討・立案

6.まとめ

まとめ

- ・可視化の前には、活用の目的や協議の主旨を踏まえ、利用するデータを選定ことが重要
- ・オープンデータや市販のデータを含め、可視化の前のデータ整理が重要で根拠をよく整理しておくことが必要
- ・可視化はあくまで手法の一つで、それだけにとらわれず、状況に応じた見せ方の工夫が必要

神戸市都心の取り組み紹介

都市の紹介

ウォーターフロントの解放感を活かした親水空間へ



出典:神戸ウォーターフロントビジョン



～人と公共交通優先の空間へ～



出典:三宮クロススクエア HP